

[精神科 神経科浜松病院]

[研修の目標]

精神障害者や精神症状に対して、誤解・偏見・差別なく診療するために、知識を深め、適切な態度・習慣を身につける。いかなる症例に有っても、身体疾患に基づく精神症状の可能性があるため、まず鑑別診断を行う。簡単な心理検査は自ら施行し経験する。精神保健および精神障害者福祉に関する法律に則った患者処遇を理解する。精神科救急を体験する。

[研修コース]

各科ローテートの一環として、一般臨床医に求められる精神科の基本的な診察知識・手技を修得する1ヶ月コースの研修を予定している。

[研修内容および到達目標]

A.研修内容

(1)外来診察

- ・複数医師の外来に同席し、多くの症例を経験する
- ・疎通性の悪い患者の診察を経験する
- ・薬物療法を習得する
- ・研修医単独の診察は行わない
- ・研修医単独では主治医とならない

(2)病棟診察

- ・精神症状の評価と記載をする
- ・状態像の把握をする
- ・薬物療法を習得する
- ・チーム医療を実践する
- ・精神保健および精神障害福祉に関する法律に基づく入院形態を理解する
- ・行動制限を理解する
- ・研修医単独の診察は可能
- ・研修医単独では主治医とならない

(3)カンファランス

- ・毎週月曜日のカンファランスに参加する
- ・カンファランスで担当症例についてプレゼンをする

(4)救急診察

- ・救急の初期治療に参加する
- ・緊急度の把握をする
- ・意識障害の鑑別をする
- ・興奮に対する処置をする

- ・精神保健および精神障害福祉に関する法律に基づく入院形態を理解する
- ・行動制限を理解する

(5) デイケア、作業療法他

- ・デイケア、作業療法に参加する
- ・職種に違いを理解する

(6) その他

- ・地域でのサポートシステムを理解する
- ・社会福祉を理解する
- ・往診・訪問看護精神保健相談等に同行する

B. 研修到達目標

(1) 症状精神病

- ・意識障害を診察できる
- ・せん妄の可能性を意識した診察ができる
- ・原因疾患を説明できる
- ・薬物療法ができる
- ・副作用を理解し、説明ができる
- ・予後の説明ができる。

(2) 認知症

- ・患者以外からの情報を収集できる
- ・HDC-Rを施行できる
- ・頭部CTの所見を解釈できる
- ・介護の原則を説明できる
- ・社会資源を説明できる

(3) アルコール依存症

- ・アルコール性障害を説明できる
- ・離脱症状の診断、治療ができる
- ・依存症の病態、予後について説明できる

(4) 気分障害

- ・病歴の聴取ができる
- ・病前性格、発病状況の聴取ができる
- ・希死念慮、自殺企図の有無を聴取できる
- ・不眠、食思不振を呈する他の疾患との鑑別ができる
- ・薬物療法ができる
- ・副作用を理解し説明ができる
- ・支持的精神療法ができる

(5)総合失調症

- ・陽性症状の聴取、記載ができる
- ・陰性症状の聴取、記載ができる
- ・疎通性が悪いことを前提とした診察ができる
- ・薬物療法ができる
- ・副作用を理解し説明ができる
- ・興奮に対する処置ができる

(6)パニック障害

- ・病歴の聴取ができる
- ・薬物療法ができる
- ・副作用を理解し説明ができる

(7)身体表現性障害、ストレス関連障害

- ・病歴の聴取ができる
- ・薬物療法ができる
- ・副作用を理解し説明ができる
- ・環境調整ができる